

Note on visits to Japanese companies operating in Southeast Asia and Taiwan, March 2014

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/41433

東南アジア・台湾における 日系企業等への訪問記録

—— 2014年 3月 ——

弁 納 才 一
古 泉 達 矢

はじめに

筆者の弁納は、これまで金沢大学国際学類の学生を引率して上海・南京にある日系の企業・工場・事務所などを参観してきた¹⁾。そして、本来、2014年3月上旬に国際学類の学生を引率して上海・南京を訪問する予定で、昨年春から準備を進めていた。だが²⁾、2013年に安倍首相が靖国神社に参拝したのを受けて、同年11月23日に中国政府が尖閣諸島を含む空域に防空識別圏を設定したために、日中間の緊張がさらに高まったのに加え、翌12月上旬には上海・南京においてもPM2.5を含む大気汚染が深刻化し、とりわけ南京では汚染指数が過去最悪の数値となり、幼稚園・学校に休校令が出される事態となった。このような状況を総合的に勘案して、急遽、訪中を中止し、台湾及びシンガポール・マレーシア(クアラルンプール、ジョホールバル)において訪問先を開拓することにした。

今回は、3月2日～12日、弁納・古泉の2人で台湾・シンガポール・マレーシア(全て日本との時差が1時間)にある日系の事務所・企業・工場及びシンガポール国立大学・マラヤ大学・中央研究院などを訪問して下見を行った。もちろん、今回、訪問した企業等の決定に際しては、事前に多くの機関・企業などから情報を提供していただき、また、多くの方々と直接面談させていただいた²⁾。なお、今回の旅程は、以下のとおりである。

2日(日), 小松空港(長栄航空BR157, 19:30発)から台湾桃園国際空港(22:00着)へ移動する予定だったが, 出発が遅れ, 台北桃園に到着したのは22:30(日本時間23:30)を過ぎていた。23:20, ホテルのシャトルバスに乗り, 約5分で台北諾富特華航桃園機場飯店(1泊3,080NT\$)にチェックインした。

3日(月), 台湾桃園国際空港(長栄航空BR225, 7:40発)からシンガポール・チャンギ国際空港(12:05着)へ移動し, 北陸銀行シンガポール事務所を訪問(15:00~17:00)した。

4日(火), シンガポール国立大学を訪問し(10:00~11:30), 学生食堂で昼食をとった後, JTBシンガポール営業所(13:00~13:40), ヤクルト(14:30~15:30), 福井県に本社のある江守商事(16:00~17:00)を訪問した。

5日(水), シンガポール(シンガポール航空SQ106, 8:35発)からクアラルンプール(9:30着)へ移動し, マラヤ大学を訪問した(11:00~12:00)。同大学の学生食堂で昼食をとった後, 富山県で創業した佐藤工業株式会社を訪問し(15:00~16:30), 同社の方々と夕食を食べた。

6日(木), クアラルンプール(シンガポール航空SQ107, 10:25発)からシンガポール(11:20着)へ移動し, 富山県に本社のある不二越(14:00~15:00)・JETROシンガポール事務所(15:30~17:00)を訪問した。

7日(金), シンガポールから陸路にてマレーシアに入国し, ジョホールバルへ移動し, 富山県に本社のある北陸電気工業を訪問した後(9:40~10:40), 石川県白山市に本社のある東邦ゴム工業を訪問し(11:30~12:30), 昼食をとりながら歓談した。午後にシンガポールへ戻り, シンガポール国立博物館を参観した(16:00~18:00)。

8日(土), シンガポール(長栄航空BR226, 13:10発)から台湾桃園国際空港(17:40着)へ移動し, 中央研究院學術活動中心に宿泊した。

9日(日), 台北から嘉義へ行き, 昼食をとった後に八田与一の関連地を訪問した後, 台北に戻り, 中央研究院研究員の張啓雄・陳慈玉両氏と夕食をとりながら歓談した。

10日(月), 台湾ソニー(10:00~11:00)・JTB(14:00~15:00)・日勝生加賀屋温泉飯店(16:00~18:00)を訪問した。

11日(火), 3・11東日本大震災3周年追悼会が開催されていた国賓台飯店に

において、日勝生加賀屋温泉飯店の徳光重人氏の紹介により山本幸男氏と名刺交換を行った。

12日(木)、台湾桃園国際空港(長栄航空BR158、14:45発)から小松空港(18:30着)へ移動して、無事に帰国した。

なお、本稿の執筆に際しては、シンガポールとマレーシアに関しては古泉が、また、それ以外に関しては弁納が責任を負うことにした。

I シンガポール(1シンガポールドル=80.53円)

(1) 北陸銀行シンガポール駐在員事務所

訪問日時：2014年3月3日 15:20～17:00

訪問場所：6 Battery Road #15-02, Singapore 049909

応 対 者：遠藤昌明(所長：Chief Representative)

写真1. 北陸銀行シンガポール駐在員事務所入口



北陸銀行シンガポール事務所では所長の遠藤氏と面会し、シンガポール及び東南アジア諸国における経済事情、シンガポールで勤務している日本人の概況などについて話を伺った。同事務所には所長の遠藤氏のほか、現地スタッフ1名が常駐している。遠藤氏は金沢大学経済学部OBで、北陸銀行へ入行後1988年から翌年にかけて北京語言大学で中国語の語学研修を受けたほか、香港の事務所にも駐在した経験があるとの事である。現在はシンガポールを

拠点に東南アジア各地を訪問するなどして、取引先企業への各種サービスの提供や現地事情の調査などに当たられている。シンガポールでは近年、現地採用の日本人女性職員の数が増えているとの話が印象的だった。

なお、面会後に遠藤氏と事務所近くの両替商を訪問したところ、人民元の買値が売値のほぼ3～4倍だった。つまり、シンガポールでは、人民元に対する需要が極めて高い。

(2) シンガポール国立大学(人文社会学部・日本研究学科)

訪問日時：2014年3月4日 10:00～11:30

訪問場所：Department of Japanese Studies, Faculty of Arts and Social Sciences,
National University of Singapore, Block AS4, Level 3, 9 Arts Link,
Singapore 117570

応 対 者：ヘンドリック・マイヤーオーレ(Hendrik Meyer-Ohle)

(学科長：Department Head)

写真2. シンガポール国立大学人文社会学部日本研究学科



シンガポール国立大学では人文社会学部、日本研究学科を訪問し、学科長のヘンドリック・マイヤーオーレ氏より同学科の学生の現況などについて話を伺った。現在シンガポールでは韓国のポップ・カルチャーの台頭が著しく、一時期ほど日本研究を志す学生は多くはない。但し同大学には韓国を専門に研究するための学科が存在しないため、大学側としては学生の教育ニーズに対応する上で少々困難を感じている。一方で人気が衰えているとはいえ、日

本研究学科を卒業した学生の就職状況は悪くはないそうだ。同学科としては本学との学術交流協定に非常に前向きであり、今後は両大学の学生同士の交流などを通じて関係を深めていきたいとの事だった。

(3) JTBシンガポール(JTB Pte. Ltd.)

訪問日時：2014年3月4日 13:00～14:00

訪問場所：79 Anson Road #07-04, Singapore 079906

応 対 者：皆川正子(アウトバウンド支店法人営業事業部マネージャー：
Manager, Corporate Sales Dept., Singapore Outbound Office)
橘康太郎(Executive, Corporate & MICE Dept., Sales Team, Div. 1)

JTBシンガポールでは、同社の現地採用職員で法人営業事業部マネージャーを務める皆川女史、および橘氏と面談し、我々の訪問目的について説明した。皆川女史はシンガポールと日本との交流事業に大変強い関心を抱いており、シンガポールの高校やポリテクニク(技術専門学校)などの学生・教員を日本へ引率し、日本側の学校との交流などの事業を手がけた経験があるそうである。このため、我々の事業についても是非前向きに検討したいという回答を頂くことができた。さらに可能であれば、将来的には本学の学校教育学類の教員とも連絡をとり、日本とシンガポール両国の学校教員間での授業研究などをめぐる交流等についても、連携を深めたいとのことである。

写真3. JTBシンガポール受付



(4) ヤクルト・シンガポール (Yakult (Singapore) Pte. Ltd.)

訪問日時：2014年3月4日 14:30～15:30

訪問場所：7 Senoko Avenue, Singapore 758300

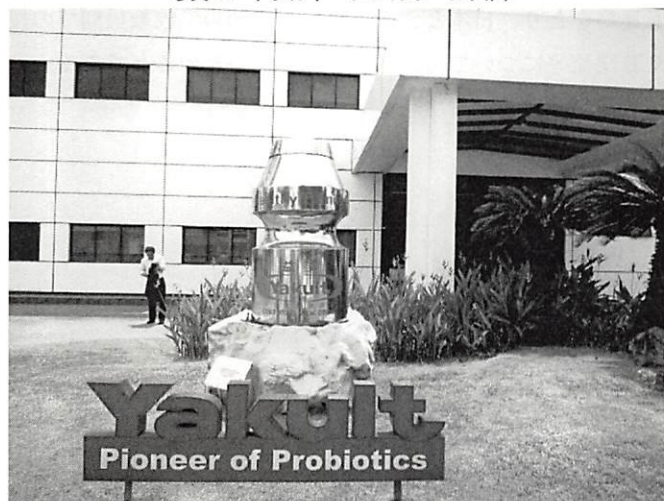
応 対 者：植田茂樹 (Senior Manager, Admin & Accounts Dept.)

中東康英 (Senior Manager, Sales Dept.)

ヤクルト・シンガポールでは、同社の香港における現地法人で勤務した経験をもつ植田氏と、同じく同社の南米・インド・フィリピン等の現地法人に勤めたことのある中東氏と面談したほか、同社の工場を見学させていただいた。植田氏によれば、本事業と同様のプログラム等で日本の高校・大学から訪問してきた学生へ工場および事業内容などを紹介することは多いそうである。また中東氏からは自身の職務経験について非常に生き生きとした話をお聞きすることができた。例えば、インドではヤクルトレディーの志望者に自転車の乗り方から教えたのだそうである。

なお、お茶の代わりに振る舞われた現地法人で製造・販売しているヤクルトは、日本のものよりも若干瓶が大きかった。様々な理由により、世界各地で販売されているヤクルトの瓶は国ごとに大きさが多少異なるそうである。

写真4. ヤクルト・シンガポール入口



(5) 江守商事(Emori Asia Holdings Pte. Ltd.)

訪問日時：2014年3月4日 16:10～17:10

訪問場所：10 Anson Road #30-07, International Plaza, Singapore 079903

応 対 者：小林哲夫(Managing Director)

高橋武(Director)

藤井猛(Sales Manager) 金沢大学卒業

写真5. 江守商事受付



江守商事では代表の小林氏、金沢大学工学部OBの藤井氏、および高橋氏と面会し、中国および東南アジアの経済事情や、江守商事の事業内容などについての説明を伺った。同商事は、かつては日本製品の海外への売り込みを行ってきたが、近年では中国における現地採用スタッフを増加させ、中国国内における中国人同士のビジネスの仲介にも力を注いでいるそうである。一方シンガポールの現地法人は、東南アジアにおけるビジネスを支える柱として機能しているとの事であった。同社は中東方面においてもビジネスの展開を計画している模様で、小林氏は翌日からのパキスタン及びドバイ出張に備えてヒゲを伸ばし始めていた。

(6) 不二越(Nachi Singapore Pte. Ltd.)

訪問日時：2014年3月6日 14:00～15:00

訪問場所：No. 2 Joo Koon Way, Jurong Town, Singapore 628943

応 対 者：高野晃洋(Managing Director)

押田善文(Vice President)

不二越のシンガポール現地法人では、代表の高野氏及び押田氏と面会した。代表の高野氏は以前台湾の現地法人に勤めた経験があり、台湾からの帰国後も主に中国各地におけるビジネスを手がけてこられたとの事である。同社のシンガポール法人は10年ほど前には社内で特に注目を集める存在ではなかったが、昨今は日中関係の悪化や中国経済の減退による日本国内での東南アジアへの関心の高まりに伴い、本社の注目を集めるようになっており、自由闊達に活動しにくくなっているとの事である。高野氏が現地法人の重要な役割として、ビジネス上の様々な問題をめぐる現地での実情を日本人に理解できる形で本社へ説明すること、すなわち両者の橋渡しをすることを挙げていたのが印象的だった。すなわち海外の駐在員は、いわば現地社会を日本向けに「翻訳」する役割も担っているのである。

(7) 日本貿易振興機構シンガポール事務所

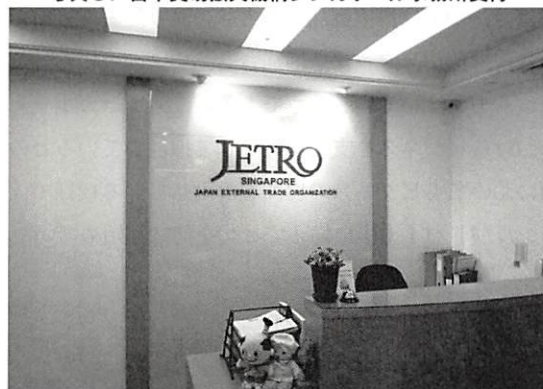
(JETRO Singapore Representative Office)

訪問日時：2014年3月6日 15:30～16:30

訪問場所：16 Raffles Quay #38-05, Hong Leong Bldg., Singapore 048581

応 対 者：石原賢一 (Deputy Managing Director)

写真6. 日本貿易振興機構シンガポール事務所受付



JETROシンガポール事務所では石原氏と面会し、本事業への協力を要請した。石原氏によれば、近年では大学のみならず高校や学習塾の主催による、

シンガポールの企業やJETRO訪問なども行われている。同事務所が関与した具体的な例として、訪問予定の大学生に事前に課題を与え、シンガポール滞在中にその回答を作成すべく企業訪問を含め様々な調査を行い、最終的にJETRO事務所宛に報告するという活動を挙げられていた。海外に渡航する機会を自主的な学習・研究のために積極的に活用し、単なる物見遊山で終わらせないという点で非常に好ましく、本学においても同様の取り組みを導入することには価値があろう。

(8) シンガポール国立博物館 (National Museum of Singapore)

訪問日時：2014年3月7日 16:00～18:00

訪問場所：93 Stamford Road, Singapore 178897

7日(金)の午後にシンガポール国立博物館を訪問した。シンガポールの中心地に位置しており、交通の便は非常に良い。外国からの一般訪問者の入場料は10ドルと多少高価だが、シンガポールに関する絵画や写真といった様々な博物品が豊富に展示されており、とりわけこの国の歴史についての展示は質量共に大変充実している。イギリス帝国史やアジア史に関心のある者には一見の価値があろう。

II マレーシア(1 マレーシアリングット=31.10円)

a. クアラルンプール

(1) マラヤ大学

訪問日時：2013年3月5日 11:00～12:00

訪問場所：Level 1, Block G, Perdanasiswa Complex, University of Malaya, 50603
Kuala Lumpur, Malaysia

応 対 者：Vigneshree King (Assistant Registrar, International Student Centre)
Nur Azwa Faharudin (Assistant Registrar, International Student Centre)

写真7. マラヤ大学国際学生センター



マラヤ大学では国際学生センターの担当者の方々と、同大学と金沢大学の学生の交換留学等について意見を交換した。マラヤ大学では交流協定にもとづく交換留学生の受け入れのほかに、マレーシア国内におけるインターンシップ・プログラム(通常6ヶ月)や、週末を利用して2泊程度のホームステイ・プログラムなども提供されている。一方、マレー語の学習については、交換留学制度によって提供されているプログラムや授業はないものの、別個に授業料を支払えば受講できる講座はあるとの事だった。本学国際学類アジアコースでは東南アジア各国への留学を希望する学生が増加傾向にあり、2012年度にはマラヤ大学への留学生も輩出しているため、同大学との交流は今後ますます発展することになるだろう。

(2) 佐藤工業クアラルンプール営業所 (Sato Kogyo (M) Sdn. Bhd.)

訪問日時: 2013年3月5日 15:00~16:30

訪問場所: 405, Level 4, Uptown 2, No. 2, Jalan SS 21/37, Damansara Uptown,
47400 Petaling Jaya, Selangor Darul Ehsan, Malaysia

応 対 者: 五十嵐正雄(営業所長: Managing Director)

古賀成(Manager, Finance and Accounting)

写真8. 佐藤工業クアラランプール営業所入口



佐藤工業クアラランプール営業所では、代表である五十嵐氏及び古賀氏と面会し、同社マレーシア事務所の設立(1971年)以来の業務内容についての説明を受けた。かつて同社の受注業務の大半は日系企業からのもので、工場の建設等が主な内容だったが、近年ではマレーシア国内におけるボルネオ島の天然ガス貯蔵施設といった、資源関係のインフラ整備などの事業にも参加している。但し現地における大規模事業は落札することが容易ではなく、また様々な不確定要素が影響するため、落札後も契約どおりに履行することは日本に比べて難しいとの事である。なおマレーシアでは外資100パーセントの企業を設立することができないため、同社の資本金の一部は現地に在住する方に出資して頂いているとのことだった。さらに両名からは長時間にわたり、マレーシアにおける日本人の子女教育といった日常生活などについても具体的な話を聞くことができた。

b. ジョホールバル

(1) 北陸電気工業(Hokuden (Malaysia) Sdn. Bhd.)

訪問日時：2014年3月7日 9:40～10:40

訪問場所：PTB 111, 244-250, Jalan Tun Mutalib 3, 81440 Bandar Tenggara,
Johor, Malaysia

応 対 者：若林昭直 (Managing Director)

島田和宏 (General Manager / QA Manager)

写真9. 北陸電気工業入口



北陸電気工業ジョホールバル工場では代表である若林氏および島田氏と面会し、工場の操業や現況についての説明を受けたほか、内部を見学させて頂いた。同工場では電気製品の基盤などを製造しており、現在の従業員は、労働者についてはその過半が工場周辺に住むマレー系住民で占められており、インド系の従業員はごく少数に過ぎない。一方で労働者を管理する役割を担っている従業員は、むしろ華人が多いとの事である。なお日本人の駐在員はごく少数しかおらず、みなジョホールバルの中心部に住んで車で通勤しているそうである。

(2) 東邦ゴム (Toho Precision (M) Sdn. Bhd.)

訪問日時：2014年3月7日 11:30～12:30

訪問場所：3rd Floor, Matang Bldg., 83A, Jalan Langkasuka, Kawasan Perindustrian Larkin, 80350 Johor Bahru, Johor, Malaysia

応 対 者：王清漢 (General Manager)

山本真伍 (Assistant Manager) 金沢大学国際学類卒業

写真10. 東邦ゴム入口



東邦ゴム工業のジョホールバル工場では、福建系華人で東京農工大学の卒業生である代表の王氏と、国際学類1期生(国際社会コース・梶川ゼミ出身)の山本氏と面会した。同工場ではコピー機などに用いられるローラー部品を製造しており、従業員はその殆どがマレー系住民で占められている。日本人従業員は山本氏のみで、華人は王氏を含め2名のみしかいない。山本氏は本社勤務8ヶ月後に突然転勤を申し渡されたそうだが、張り切って業務に取り組んでいた。クライアントとの会話は主に英語を用いているそうである。またジョホールバルで生活するには車が不可欠なので、日本の免許証を現地で書き換えたとのこと。休日はゴルフや現地在住日本人とのスポーツ活動に参加し、多忙ながらも充実した生活を満喫している様子だった。

Ⅲ 台湾(1台湾ドル=3.36円)

筆者の弁納にとって、台湾訪問は13年ぶりのことであり、かつて嘉義には訪問したことはあったが、台南を訪問したのは初めてのことだった。

(1) 中央研究院学術活動中心(台北市南港区研究院路2段130号)

台湾では、3月8日から中央研究院学術活動中心(中心はセンターの意味。写真11を参照)に4泊した(1泊につき、シングルが1,550NT\$, ツインが

1,700NT\$。NT\$は新台幣ドルのことである。なお、これは中央研究院研究員の紹介による内部料金)。また、同センター内の地下1階には書店(専門書・学術書のみ)の他に数台の卓球台とコインランドリーがある(洗剤1袋10NT\$, 洗濯10NT\$, 乾燥10NT\$)。

写真11. 中央研究院学術活動中心正面



中央研究院にとって最寄りの地下鉄の駅は板南線始発駅である南港展覽館站で、中央研究院からはバスで約10分を要する(4つ目のバス停, 15NT\$)。3月9日(日)19:00より、中央研究院近代史研究所の研究員である張啓雄・陳慈玉の両氏と中央研究院学術活動中心内の中華レストラン(その他に、西洋レストラン・喫茶店・ハンバーガー店も併設している)にて会食をし、台湾社会・学術などの多方面にわたって情報交換を行った。なお、中央研究院の敷地内には郵便局とコンビニ(その2階はスーパーマーケットになっている)がある。

また、3月8日は桃園国際機場(国際空港)から中央研究院まではタクシーで1,500NT\$余りを要したが、帰国日の3月12日にはタクシーで中央研究院から捷運(地下鉄)の南港展覽館站まで行き、そこからリムジンバスで桃園国際機場へ行った(115NT\$)。

(2) 台南

3月9日(日)早朝、台北駅で高速鉄道の切符を購入するために、販売窓口に並んでいると、我々の前に東南アジアから来たとされる若い労働者を連れた台湾人がいたが、その若者が順番待ちの停止線を超えて歩き出したところ、その同伴者が制止して停止線で待つようにマナーを教えていた。

高速鉄道(新幹線)にて台北站より9:00に出発し、10:24に嘉義站到着し(単程票1,180NT\$)、タクシー(計程車)にて戦時中に技師の八田与一(金沢市生れ)が建設した烏山頭水庫(写真12を参照)、八田与一記念館(写真13を参照)などを参観した。徳光氏に聞いた話では、八田与一が終戦間際に死去し、その妻が終戦直後に烏山頭水庫に身を投げて亡くなり、残された子供たちは長兄(八田与一は次男だった)に引き取られて名古屋へ行ったという。

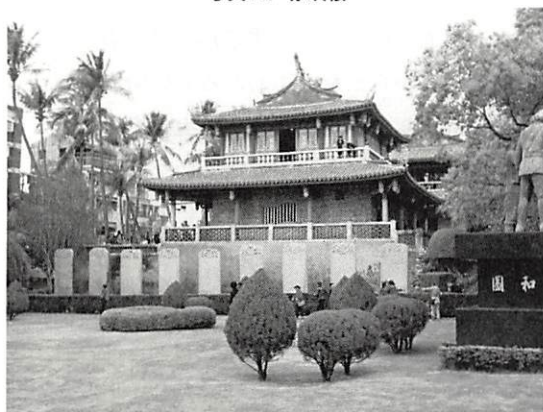
写真12. 烏山頭水庫



写真13. 八田与一記念公園入口



写真14. 赤崁楼



タクシーで台南まで移動し、金沢大学の山本洋先生に紹介された担仔麵で有名な店で昼食をとった後、赤崁楼(かつて台湾を占領支配していたオランダ人が建設した居城の跡地に建てられた。写真14を参照)を参観した。

写真15. 高速鉄道「台南站」の入り口



その後、高速鉄道の「自由座」(自由席1,435NT\$)で台南から台北に戻ってきた。台南市街地から高速鉄道の台南站(写真15を参照)まではタクシーで移動したが、かなり離れていた。

(3) 台湾索尼股份有限公司(台北市中山区長春路145号5楼)

台湾ソニーが入居しているビルの1階の受付で誰何され、台湾ソニーの事務所とアポを取っていることを告げると、ソニーの現地社員らしき女性が受付のところまで迎えに来てくれて、我々をビルの上層階(5階～8階)にある台湾ソニーの事務所まで案内してくれた(写真16を参照)。

写真16. 台湾ソニーが入っているビルの1階の受付



当日は、董事長兼總經理の荒牧直樹氏と公共関係置策略規画部門協理兼董事長特別助理の野上靖博氏に應對していただいた。両氏の話によれば、すでに数多く企業訪問を受け入れており、将来、金沢大学の学生が当該企業を訪問することも歓迎する旨の御快諾を得た。

(4) JTB台湾・世帝喜旅行社股份有限公司(台北市中山北路2段60号東南大樓10楼)

董事長の前土井智克氏から4月から董事長を引き継ぐことになっている林田充氏の名刺をいただいたが、林田氏はちょうど日本へ一時帰国していて直接お会いすることはできなかった。

同事務所内には女性従業員が多かった。その中には、現地採用の日本人女性も1人いるとのことだった。

(5) 日勝生加賀屋国際温泉飯店股份有限公司(台北市北投区光明路236号)

3月10日(月)、地下鉄の新北投站下车し、徒歩3分ほどで日勝生加賀屋温泉飯店に到着し、16:00~18:00の約2時間にわたって、日勝生加賀屋温泉飯店の董事である徳光重人氏にお話を聞かせていただいた。

なお、徳光氏とは、すでに3月20日に金沢大学角間キャンパスの研究室までお出でいただき、同氏のこれまでの生き様を含めた経緯について話を聞くとともに、台湾における訪問先などについて打合せをしていた。

(6) 台湾日本人会

3月11日(火)は、13:00から台北市中山北路の国賓大飯店(アンバサダーホテル、JTB台北支店の向かい側)で「311東日本大震災三周年追悼・感恩会」が開催されており、12:30に同ホテルのロビーにて日勝生加賀屋温泉飯店の徳光氏と待ち合わせ、台湾日本人会・台北市日本商工会(台北市中山北路2段57之1号三明大楼7楼)の総幹事をつとめている山本幸男氏を紹介していた。今後、同氏は遠藤氏とともに台湾にある日系企業等とのパイプ役として重要な役割を担っていただけるものと期待している。

おわりに

今回、御多忙中にもかかわらず、我々の訪問を快く受け入れていただいた事務所・企業・工場などの方々に対して、この場を借りて改めて衷心より御礼を申し上げたい。とりわけ、シンガポールでは、北陸銀行の遠藤氏にはシンガポールの企業などを案内していただいたばかりでなく、クアラルンプールまで御同行いただき、また、台湾では、日勝生加賀屋の徳光氏には企業などを案内していただいたばかりでなく、台湾日本人会・台北市日本商工会の総幹事を紹介していただいた。

筆者の1人である弁納は、かつてマレーシアのクアラルンプールとマラッカを訪問したことがあり、一方、古泉はかつてシンガポールを訪問したことがあった。また、台湾については、弁納は今回が4回目の訪問であり、前回、訪問したのは13年前の2001年8月~10月だったが(中央研究院近代史研究所

の訪問学者として学術活動中心に宿泊)、台湾人のマナーは全体として前回訪問した時に比べるとかなり向上しているように感じられた。

なお、今回、シンガポールでは中国語と英語が通用し、マレーシアでは英語・マレー語の他に中国系を中心に中国語も通用するが、もちろん中国語は北京語ではなく、普通話であり、しかも、両国ともに中国系住民は広東系・福建系が多いことがわかった。

今回、訪問した企業などでは、学生が訪問した際には、各自の生き様や人生について語っていただくのが一番良いというお願いをして、これまでの人生経験について聞かせていただいた。その中に貫かれている意志を感じることができ、大いに感銘を受けた。

注

- 1) 詳細については、弁納才「華東地域における日系企業の現況について－2009年9月」(『金沢大学経済論集』第30巻第1号、2009年12月)・同「中国華東地域における日系企業への再訪記録－2012年3月」(『金沢大学経済論集』第33巻第1号、2012年12月)を参照されたい。
- 2) とりわけ、台湾日勝生加賀屋温泉飯店の董事である徳光重人氏には、後述するように、2月20日(木)13:00にわざわざ金沢大学角間キャンパスの弁納研究室までお出でいただき、いろいろと御教示をいただいた。その際、台南の烏山頭水庫(ダム)や八田与一記念館を訪問することを強く勧められた。徳光氏は、台湾石川県人会(台北市天津街65号2楼)の代表、財団法人紀念八田与一文化芸術基金会(台南市金華路2段289巷39号)の福執行長などを兼任されている。